

- (1) どの子どもも積極的に生き生きと学習にとりくんでいる。
- (2) ささえ合い、はげまし合い、つまずきや失敗をいかしながら、目あてに向かって学習をすすめる。
- (3) 子どもは、自分で考え工夫し、また、考え合い工夫し合って、自分の手で、自分たちの手で解決しようと努力している。
- (4) 遅速はあっても授業の目あてに到達することができる。また、当面しては、それができないとしても、どの子どももやる気をおとしていない。こうして学力がその子なりに高まっていく状況が見えてくる。

- (5) 教師は、子どもたちの努力の方向が目あてからはずれないようにリードしつつ、つまずきや失敗のいかし方を援助し、困難にたじろぐのをはげまし、それをのりこえるヒントを与え、こうして、子どもが自力で目あてに到達するようにささえやっていく。

このような授業状況である授業を展開しうる教師なら、授業がうまいと言ってもよいのではなかろうか。

さて、このような授業を実現できるためには、教師は、

- (1) 授業というものは、子どもが自らの学習を現実
に成就するのをささえ、はげまし、なしとげさせる
いとみななのだという授業観に立つであろう。
しかし、教師が教えなければならないものは、積
極的にしかも確実に教えなければならない。
- (2) 教材に精通しており、授業の目あてに到達させる
ために、それぞれの子どもに応じて、柔軟な教
材の取り扱いができる力量がある。
- (3) ひとりひとりの子どもについて十分な理解をも
ち、それぞれを援助する効果的な手をうつことが
できる。
- (4) 子どもを集中させ、熱中させる演技力が身につ
いている。^(注2)
- (5) ユーモアがあって、心をくつろがせ、ゆとりを
とりもどさせ、やる気をささえることができる。
- (6) 日頃の学級づくりがゆきとどいているので、考
え合い、ささえ合いがよくいく。
- (7) 学習の仕方の学習がたえず配慮され、子どもの
身につくようにみちびかれている。
- (8) 年齢にかかわらず、若々しい情熱のある人柄
で、健康である。

こうした条件をみたしているし、みたくつとめ
ていると見ることでできる存在でなければならぬ。

ところで、授業が型どおりにそつなくすすめられ、
板書なども整然としていて、一応のまとめができ、
次回への手くばりもほどこされたとしたら、見た目
には授業はうまくいったとうつつるかも知れない。だ
が、数人のよく発言する子どもを中心にすすめられ、
板書なども、あらかじめ用意されたものを貼付した
にすぎなく、まとめも二三の子どもの発言や教師だ
けの発言で行われたというだけで、上述した諸条件
がよくみたまされている、またはみたまされる方向で
あるのでなかったら、授業がうまく行われたとはいわ
れない。じつは、授業がうまいとは、見た目のカッ
コよさではなく、授業の中で発揮されるさまざまな
テクニックの巧妙さにつきるものでもない。教師の
人格の全体のはたらきによってなされるはたらきか
けとそれに呼応する子どもたちの生き生きとした活
動による上述した諸条件の充足していく相に名づけ
けられるべきものであると考える。

蛇足ながら、よい授業と授業がうまいとのかわり
にふれておきたい。

よい授業を実現できることが、授業がうまいとい
うことである。よい授業とは、上述したそれぞれの
条件がみたまされている授業に他ならないというわけ
である。そして、見た目に授業がうまいようであ
っても、ほんとうによい授業を展開したことにはなら
ない場合があるという次第について心しなければなら
ないと思う。

2. ひとりひとりの子どもに効力感を育てる ことができること

どの子にもその子なりに効力感^(注3)をもたせることが
でき、それがしだいにたしかなものになるようにさ
さえ、はげます教師はよい教師である。

効力感については、波多野諺余氏等が「自分が
努力すれば、環境や自分自身に好ましい変化を生じ
させうる、という見直しや自信をもち、しかも生き
生きと環境に働きかけ、充実した生活を送っている
状態（にともなう感情）である。と定義づけている。
(カッコ内は筆者の加筆)

どの子もこうした状況にあるようにみちびくのが
教師のつとめであろう。とくに、出来ない子だと自
分でおもいこんでいる子に、自分だってやれるとい
う気持をおこさせることが大事であり、いわゆる出